

金知見博士 略譜

- 1931年 8月 25日(旧暦) 韓国 全羅南道 靈岩郡 金井面 本村で生まれる。
1960年 3月 東国大学校 仏教学科 卒業
1963年 2月 <恵能의 思想 研究>で東国大学校 大学院 碩士課程 卒業
1967年 3月 駒沢大学大学院 人文科学研究科 博士課程(禅学専攻)
満期退学
1971年 3月 東京大学大学院 人文科学研究科 博士課程(華嚴学専攻)
満期退学
1973年 3月 <新羅華嚴思想の研究>で東京大学大学院 文学博士学位 取得

経歴

- 1970年 3月～1976年 3月 東国大学校 仏教大学 助教授
1976年 5月 印度学仏教学会理事
1976年 9月 大韓伝統仏教研究院設立
1980年～1991年 7月 UNESCO本部(パリ)人類文化史編纂委員
1983年 3月～1989年 7月 江原大学校 人文科学大学 哲学科 教授
1985年 3月～1989年 7月 江原大学校 文化財委員
1988年 1月～1989年 3月 江原大学校 人文科学研究所 所長
1989年 4月～1997年 2月 韓国精神文化研究院教授
1989年 8月 草衣思想研究会 会長
1990年 4月 海東仏教大学 大学院長
1990年 8月 仏教教育大学 大学院長
1994年 4月～1995年 3月 東京大学 人文社会系 客員教授
1997年 2月 韓国精神文化研究院停年退任

- 1999年 4月~2000年 3月 日本国際文化研究センター 客員教授
 2000年 4月~2001年 3月 東京大学 人文社会系研究課 客員研究員
 2001年 1月 21日 居処 東京新宿常円寺で他界

研究業績

<著>

- 1980 訳註 華嚴經 中央新書 86 中央日報社
 1981 現代人을 위한 仏教 中央新書 99 中央日報社
 1994 四山碑銘集註를 위한 研究 韓国精神文化研究院
 2002 莊峰散考 華嚴思想과 禪 民族社

<編著>

- 1987 祖堂集并論集 大韓傳統仏教研究院
 1988 耘虚和尚懸吐 法界図記叢髓録 大韓傳統仏教研究院
 1988 先覺國師道說의 新研究 民族社
 1988 Prasannapada 大韓傳統仏教研究院
 1989 元曉聖師의 哲学世界 民族社
 1989 六祖壇經의 世界 民族社
 1995 法界図円通記 古典資料叢書 95-2 韓国精神文化研究院
 1998 道說研究 民族社

<共著>

- 1992 新羅花郎研究 韓国精神文化研究院
 1994 説法宝典 海東仏教大学教材編纂室

<訳註>

- 1983 大華嚴一乘法界図註并序: 金時習의 禪과 華嚴
 大韓傳統仏教研究院
 1987~9 元曉 晉訳華嚴經疏序 元曉聖師全集 3 国訳刊行会

- 1987~9 元曉 華嚴經疏 卷3, 元曉聖師全集 3 国訳刊行会
 1992 金剛經 民族社
 1993 華嚴一乘法界図記 大韓傳統仏教研究院
 1994 華嚴經: 無限의 世界觀 民族社
 1997 義相 著 一乘法界図合詩一印 초롱
 2000 작은경전 3, 華嚴經 民族社

<訳>

- 1971 中国人의 思惟方法(著: 中村元), 東西文化院(重版: 까치, 1990)
 1980 禪, 그 世界(著: 鈴木大拙), 同和文化社
 1981 玄奘三藏(著: 彦悰), 同和文化社
 1982 日本人의 思惟方法(著: 中村元), 우진
 1984 仏陀의 世界(著: 中村元), 김영사(1990 再版)
 1989 普勸坐禪儀, 日本思想叢書 5(著: 永平道元), 광일출판사

<研究論文>

- 1958 禪和라는 蛇足, 『東国思想』 1, 東国大学校仏教学会・哲学会
 1963 惠能의 般若觀에 대한 序說, 『東岳』 3, 東国大学校
 1973 新羅華嚴學의 系譜와 思想, 『學術院人文社会論文集』 12(再収録
 [1988] 『韓國華嚴思想史研究』, 仏教史学会)
 1975 新羅華嚴學의 主流考, 崇山朴吉真博士華甲紀念 『韓國仏教思想史』,
 円光大学校
 1978 韓國仏教의 和解思想, 『平和研究』 4, 慶北大学校
 1981 仏教思想과 円仏教, 『円仏教思想』 5, 円光大学校
 1983 雪岑의 華嚴과 禪의 世界, 道原柳承國博士華甲紀念 『東方思想論考』
 (日本語 [1988] 金岡秀友博士華甲紀念論集) (再収録 [1988] 『韓國華
 嚴思想史研究』, 仏教史学会/ [1989] 『梅月堂: 그 文學과 思想』, 江
 原大出版部)
 1984 初期海東華嚴의 倫理, 『韓國宗教』 9, 円光大学校 宗教問題研究所
 (再収録 [1984] 『法輪』 185, 法輪社)

- 1985 沙門雪岑像素描, 文山金三龜博士華甲紀念『韓國文化와 円仏教思想』, 円光大学校(日本語 [1989] 『松ヶ岡文庫研究年報』 3)
- 1987 知訥에서의 禪과 華嚴의 相依, 『普照思想』 1(再収録 [1988] 『修多羅』 3, 海印僧伽大学)
- 1987 海東沙門元曉像素描, 『元曉研究論叢』, 国土統一院(再収録 [1989] 『元曉聖師의 哲學世界』, 民族社/ [2000] 『三均主義研究論集』 21, 三均学会)
- 1988 沙門道詵像素描, 『先覚国師道詵의 新研究』, 民族社
- 1988 趙素昂撰 新羅国元曉大師伝併序考, 『三均主義研究論集』 10
- 1988 新羅義相의 法諱考: 海東華嚴의 曆運과 關聯하여, 趙明基博士追慕『仏教史學論文集』, 東国大出版部(日本語 [1990] 『韓國仏教学 SEMINAR』 4/ 中国語 [1991] 季羨林教授八十華誕紀念論文集, 再収録 [2001] 『義相의 思想과 信仰研究』, 義相記念館編, 仏教時代社)
- 1989 敦煌壇經隨想노트: 反省과 展望, 『六祖壇經의 世界』, 民族社(日本語 [1991] 前田惠學博士頌壽記念『仏教文化學論集』, 山喜房仏書林、再収録 [1994] 『禪과 東方文化』, 韓中仏教學術交流會/ [1997] 『禪武學論集』 6, 國際禪武學會)
- 1989 海東華嚴의 뿌리와 흐름, 『汎韓哲學』 4, 汎韓哲學會(日本語 [1991] 前田惠學博士還曆記念論集『我の思想』, 春秋社)
- 1989 法界図円通記의 텍스트 再考: 中卷落帙의 問題를 中心으로, 『東洋學學報』, 檀国大学校(日本語 [1990] 『印度學仏教學研究』 38-2)
- 1989 『臨濟義玄禪師新論』, 仏教新聞社編, 우리출판사
- 1990 精註四山碑銘 發見記, 次山安晉吾博士華甲紀念『東洋學論叢』
- 1990 義相大師: 海東華嚴의 기둥 세운 宗主, 『韓國仏教人物思想史』 仏教新聞社編, 民族社
- 1990 弥勒信仰과 花郎思想, 『精神文化研究』 13-1
- 1990 朝鮮朝 初期 雪岑의 華嚴精神, 『朝鮮朝의 哲學思想과 時代精神』, 東洋哲學會編
- 1991 教宗의 思想的 傳統, 『韓國思想史大系』 3, 韓國精神文化研究院

- 1991 新羅 義相 「白華道場發願文」 体元略解의 補註懸吐, 震山韓鍾万博士華甲紀念『韓國思想史』
- 1991 東아시아 仏教에 있어서 元曉의 位相, 第6會 國際學術會議論文集『韓國學的 世界化』 1, 韓國精神文化研究院
- 1992 普照国師의 華嚴觀素描, 범흥스님編, 『禪의 世界』, 松広寺
- 1992 惡에 대한 仏教的 理解: 그 超克의 方向摸索을 위하여, 『惡이란 무엇인가』, 韓國精神文化研究院
- 1992 苦痛에 대한 仏教的 解釈, 『惡이란 무엇인가』, 韓國精神文化研究院
- 1993 趙素昂撰 新羅国元曉大師伝併序, 如山柳炳德博士華甲紀念論叢『韓國宗教思想의 再照明』, 円光大学校
- 1993 崔致遠의 三教思想, 『韓國宗教』 18, 円光大学校 宗教問題研究所
- 1994 五戒에 대한 새로운 認識과 實踐, 『現代社會의 菩薩精神』, 李泓波編著, 大韓仏教觀音宗
- 1994 海東華嚴과 海印三昧, 『白蓮仏教論集』 3, 白蓮仏教文化財團
- 1995 三国史記의 高僧資料檢討, 『三国史記의 原典檢討』, 韓國精神文化研究院
- 1995 師資相承과 滿目青山, 『漢巖一鉢錄』, 漢巖門徒會
- 1995 韓國仏教特性에 관한 研究, 『韓國傳統思想의 特性 研究』, 研究論叢 95-2, 韓國精神文化研究院
- 1996 鏡虛禪師散考, 『禪武學論集』 5, 國際禪武學會
- 1997 均如伝 再考, 綠園스님 古稀記念學術論叢『韓國仏教의 座標』(日本語 [1997] 鎌田茂雄博士古希記念『華嚴學論集』)
- 1997 金時習 『華嚴積題』의 註積的 研究, 『禪武學論集』 6, 國際禪武學會
- <學術發表>
- 1978 東洋仏教에 있어 新羅系 華嚴學의 指導의 役割과 位置, 第1回 國際仏教學術會議 <均如의 華嚴思想>, 大韓傳統仏教研究院
- 1979 元曉의 『判比量論』에 대하여, 第2回 國際仏教學術會議 <元曉思想>, 大韓傳統仏教研究院

- 1980 義相의 信仰, 第3回 國際佛教學術會議 <新羅 義相의 華嚴思想>, 大韓傳統佛敎研究院
- 1981 新羅 崔致遠撰 四山碑考, 第4回 國際佛教學術會議 <華嚴思想과 禪門形成: 崔致遠과 關聯하여>, 大韓傳統佛敎研究院
- 1982 東아시아에 있어서 新羅僧의 役割, 第5回 國際佛教學術會議 <아시아佛敎의 뿌리와 흐름>, 大韓傳統佛敎研究院
- 1984 知訥撰 円頓成佛論, 第6回 國際佛教學術會議 <普照國師知訥의 思想>, 大韓傳統佛敎研究院
- 1986 禪家龜鑑에 대하여, 第7回 國際佛教學術會議 <護國聖師 西山의 思想>, 大韓傳統佛敎研究院
- 1986 元曉思想의 國際的 展開, 元曉聖師涅槃1300週年記念 學術세미나, 大韓佛敎元曉宗
- 1986 元曉思想의 國際的 理解, <아시아 속의 韓國人>, 翰林大
- 1988 新羅 義湘의 本諱考, 第5回 國際學術會議 <韓國學의 課題와 展望> 2, 韓國精神文化研究院.
- 1990 PAÑCA-SĪLA는 平和의 要諦, 第17次 世界佛敎徒 서울大會 PAÑCA-SĪLA學術討論會
- 1991 義相傳의 再考, 第10回 國際佛教學術會議 <亞細亞佛敎에 있어서 華嚴의 位相>, 大韓傳統佛敎研究院
- 1992 崔致遠의 三敎思想, 第13回 國際佛教學術會議, 円光大 円佛敎思想研究院
- 1996 孝寧大君의 經書寫經 및 諺解의 社會敎育의 意義, 孝寧大君誕辰 600週年記念 學術大講演會, 世宗文化會館
- 1996 道詵의 沙門像, 『道詵國師와 韓國』, 第12回 國際佛教學術會議, 大韓傳統佛敎研究院
- 1998 頓煌本 壇經의 再考, 第1回 韓國禪國際學術會議
- 1998 禪을 보는 視覺, 第9次 國際禪武學術大會 發表要旨

<雜誌記事>

- 1971.11 華嚴一乘法界圖研究抄, 『法施』 79, 法施社
- 1973.12 僧伽敎育의 오늘과 내일: 學校敎育, 『積林』 6·7合
- 1974.12 鄭寅普撰 僧將騎虛堂靈圭大師紀蹟碑銘並序 訳解
1975. 2 原則=無能人?, 『自由敎養』 7-2
1975. 6 密敎의 現代의 價值, 『法輪』 76, 法輪社
1975. 7 學習維摩經, 『法施』 123, 法施社
1976. 1 學習弥勒經, 『法施』 129, 法施社
1977. 7 오늘을 사는 知慧, 『法輪』, 法輪社
1984. 7 円頓成佛論, 『佛敎思想』 8, 佛敎思想社
1984. 9 反省해야 할 韓國佛敎, 『月刊朝鮮』 5-9(54)
- 1985.10 真理 앞에서의 平等: 義相이 實踐한 中心思想, 『金剛』 10, 月刊金剛社
1986. 6 禪을 보는 視覺, 『政友』 6-6
1986. 6 蓮潭의 和解와 退溪의 守一: 韓國佛敎의 얼 蓮潭有一, 『金剛』 18, 月刊金剛社
1989. 7 元曉學의 脈을 이은 曉堂스님, 『韓國人』 8-7
1990. 2 少太山의 作務精神, 『円佛敎思想研究院院報』 33
1990. 5 少太山의 人間像 素描, 『円佛敎思想研究院院報』 34
- 1990 여름 海印圖의 由來, 『世界佛敎』 6
- 1991 봄 東洋禪觀의 一瞥, 『世界佛敎』 9
- 1991 茶詩鑑賞, 『韓日茶文化交流會』
1995. 7 왜 義相인가: 華嚴宗師 義相(座談: 鄭舜日, 鄭淳台), 『Win』 12, 中央日報社
- 1996.7 道詵의 沙門像: 法에 업매이지 않는 雲水行脚, 말 잇은 禪僧의 師表, 『Win』 14, 中央日報社
- 1996.10 땅이름에서 보는 予言들, 『月刊에세이』
- 1998.7 円光의 精神과 思想은 21世紀의 새로운 指導原理(對談: 閔泳珪), 『佛敎春秋』 12, 佛敎春秋社

- 1999.12 達摩碑 発見으로 新羅禪脈 밝혀질 듯, 『仏教春秋』 16, 仏教春秋社

<新聞記事>

1967. 7.16 知訥 壇經에 관하여, 大韓仏教新聞
 1968. 6. 1~11.10(6回) 元曉大師 判比量論, 大韓仏教新聞
 1969. 6. 1~ 7. 1(5回) 元曉大師 判比量論, 大韓仏教新聞
 1975. 5.13 禪과 日常生活, 大韓仏教新聞
 1984. 4.16 人間·社会·宇宙란 무엇인가?, 江大新聞
 1985. 5.27 仏誕日の 現代的 意味, 江原日報
 1986. 5. 7~ 8.16(9回) 韓国仏教流通秘史 連載(開化기와 李東仁~慧庵 禪師의 家風), 週刊宗教
 1986.12.12 予言性を 띤 地名들, 서울新聞
 1986.12.21 敬順王과 弥勒信仰, 서울新聞
 1987. 1.20 帳幕속의 金剛山, 江原日報
 1987. 1.27 梵日国師, 江原日報
 1987. 2.12 紅蓮庵, 江原日報
 1987. 9. 2 韓国仏教人物思想史 義相大師, 仏教新聞
 1989. 1. 7 日·韓新春対談: 金知見-梅原猛, 中外日報
 1989. 1.10 日·韓新春対談: 金知見-梅原猛, 中外日報
 1989. 9.26 少太山の 作務精神, 円仏教新聞
 1990. 6. 1 価値觀을 찾는다, 世界日報
 1991. 3. 7 四川講壇을 읽고, 世界日報
 1991. 5.29 해방춤, 東大新聞
 1991.11. 5 義相伝再考, 中外日報
 1992.11.11 古代日本の偉材日羅の功績顯彰を, 中外日報
 1993.11. 5 性徹스님 靈前에, 世界日報
 1993.11. 9 金知見教授가 본 性徹스님 法語와 思想, 文化日報

<書評>

1990. 5.23 韓国仏教人物思想史, 仏教新聞社編, 仏教新聞
 1995 江華學派의 文學과 思想(1)(2)(3), 『精神文化研究』 通卷 60호
 1995. 3 四川講壇·江華學 最後의 光景을 묶어내며, 『多寶』 13
 1997.10.29 道詵国師, 仏教伝記文化所 엮음, 文化日報

外国語

<編著>

- 1968 『華嚴論節要』, 大阪市清風學園 平岡宏峯発行(影印及び解題): 韓国語 [1972] 普蓮閣
 1973 新羅仏教研究, 山喜房仏書林
 1977 均如大師華嚴學全書 上下, 後染出版(韓国語 [1977] 大韓伝統仏教研究院)

<研究論文>

- 1966 高麗知訥の壇經跋文について, 『印度学仏教学研究』 29(15-1)
 1967 韓国古代仏教史, 『駒沢大学仏教学報』 1
 1968 華嚴論節要について, 『印度学仏教学研究』 32(16-2)
 1969 円頓成仏論について, 『印度学仏教学研究』 34(17-2)
 1970 「法集別行録節要並私記」について, 『印度学仏教学研究』 36(18-2)
 1971 華嚴一乘法界図について, 『印度学仏教学研究』 38(19-2)
 1971 寄海東書考: 特に五教章和本・宋本の背景について, 『學術論文集』 1
 1973 校注 法界図円通記, 『新羅仏教研究』, 山喜房仏書林
 1979 均如大師華嚴學全書 解題, 『仏学研究論文集』, 台湾: 仏光出版社
 1980 元曉の『判比量論』, 『アジア公論』 9-3(89)
 1988 渡来文化として日本文化について, 『史学公論』 145
 1991 義相伝再考, 『印度学仏教学研究』 80(40-2)
 1995 一然の重篇曹洞五位序訳注, 『松ヶ岡文庫研究紀要』 9, 松ヶ岡文庫

- 1996 韓国仏教文化論、『東アジア社会と仏教文化』、高崎直道・木村清孝編、春秋社
- 1997 『法界図記』のテキスト再考：「因陀羅尼」の表記について、『東方』13(韓国語 [1997] 『仏教春秋』、仏教春秋社)
- 1999 内藤湖南先生の真蹟：高麗太祖顯陵詩について、118回『日文研フォーラム報告書』日本国際文化研究センター

常円寺での講演

* この文章は故金知見先生が2000年7月15日、居所だった新宿常円寺のお施餓鬼会の時成された講演を書き留めたものである。

本日由緒ある常円寺のお施餓鬼の場を利用して諸先生のお目にかかるようになったことはわたくしにとっては大変光栄なことだと思っております。まず餓鬼のことから申しますと、とても広くて深い世界観を持っている仏教には、三悪道という世界がございまして、その中に餓鬼という世界がございませう。実は餓鬼という言葉をやたくしどもは日常生活の中でよく使っています。たとえば、お子さんたちが遊んでる時「あのがき」とか、よくものをたべている時「あのがき」とか、そういう言葉をよく使いますね。その時の「がき」というのがまさに餓鬼道の餓鬼でございませう。この餓鬼道という世界に住んでいるものたちは非常に欲張りでも何でも自分だけ食べたいっていうような気持ちをもってはいるんですけども、なかなか供養してくれないので、食べさせてくれないので非常にお腹が空いている上、苦しんでいるわけがございませう。わたくしどもは日常生活をしているうち、人間同士のことは大事にしながらも人間以外のものはあまり大事にしないで愚かにすることがございませうが、仏様はその餓鬼道で苦しんでいるものたちのためにお施餓鬼という方便を續きまして供養するんでございませう。

そういえば、この常円寺の向かい側に新宿警察署というところがあるんですけど、あちらに「差し伸べる手の温もり」ということがかけてありました。やっぱりいいことを言っているんだなって感じてございませう。普通、温もりの手を差し伸べるとか、差し伸べる手の温もりとかは人間同士でいうんですけども、その餓鬼道までもお釈迦様の教えは温もりの手を差し伸べておられていますので、普通の慈悲じゃなくて大慈悲ともいえるんでしょ。

ところで、餓鬼道で苦勞している、苦しんでいるものたちは、わたくしども